

開催報告

令和4年度 北海道青少年育成大会（「少年の主張」全道大会） 2022年9月2日（金） 北海道立道民活動センター（かでる2・7）／札幌市

3年ぶりの通常開催、全道から約200名の関係者が集う

令和元年度以来、3年ぶりの通常開催となった今大会には、全道から約200名の青少年育成関係者が集いました。

午前中は、青少年の育成に功績のあった方々の表彰式や、「少年の主張」全道大会で最優秀賞等を受賞した3名の中学生の発表、名寄市の団体による事例発表がありました。午後は、尾花 紀子氏（ネット教育アナリスト）による基調講演の後、札幌緑小学校スクールバンドによる演奏で大会を締めくくりました。



北海道社会貢献賞、北海道青少年基金事業顕彰の表彰式

長年に渡り、青少年の健全育成活動に尽力された9名の方々に、北海道の森環境生活部長から北海道社会貢献賞が贈られました。続いて、当協会の竹谷会長から、優れた活動を展開している青少年団体の功績を讃える北海道青少年基金事業顕彰が、『特定非営利活動法人E-LINK（札幌市）』に贈られました。（7ページ参照）

事例発表 — 名寄駅前コミュニティスペース「naniroBASE&Lab.」の活動を紹介 — 青少年の活動発表 — 札幌緑小学校スクールバンドの小さな演奏家達が、迫力ある演奏を披露 —

名寄市の駅前商店街で、コミュニティスペースを運営する黒井理恵副所長から、活動内容の発表がありました。「何かをしたい」大人や名寄市立大学生が集まり、アイデアとチャレンジが交錯する、街の新たな社交場が生まれています。

最後は道内屈指の小学生プラスバンド、札幌市立札幌緑小学校スクールバンドの児童約40名が演奏を披露。会場は笑顔と熱気に包まれました。

なにいるベースアンドラボ



基調講演

演題「令和の超デジタル社会を生きる子どもたちのために 学びに趣味にコミュニケーションに…まずは現状を知り、出来ることを考えよう！」

ネット教育アナリスト おばな のりこ
尾花 紀子 氏



デジタル社会の現状

最近、「現金支払い」から「電子マネー決済」へ、役所やお店・病院等でもインターネット予約が広がるというように、身近な生活の中で変化が見られます。教育現場でも、プログラミング授業の開始や学習用GIGA端末の使用、授業や面接のオンライン化など、デジタル化の波がコロナ禍で加速されて押し寄せ、子ども達を取り巻く状況は大きく変わりつつあります。

人の特性とネットの特性

“人”には、自分に都合の悪い情報を無視したり過小評価すること、自分の思い込みを肯定するために都合の良い情報ばかり集めてしまう傾向があります。また、普段使っているスマホの情報は、よく見るニュースや検索ワードによって「あなた好み」にカスタマイズされており、それ以外の情報がはじかれてしまうという“ネット”の特性も認識しておく必要があります。

情報を正しく見極めるために

ネット上には、わざと一部のみを切り取った作弄的な情報もあります。すぐに鵜呑みせずに「他の情報と比べる」「情報の

発信元を確かめる」「情報はいつ頃のものかを確かめる」「一次情報を確かめる」など、冷静に事実確認することを身につける必要があります。勢いで投稿・拡散したりすることはとても危険です。

“コントロールする力”を身につけてネットを安全に利用するためのルールづくり

ネットを子ども達のコミュニケーションの道具として使わせるならば、まず大人が寄り添って一緒に使うことで学ばせましょう。その中で、言葉や画像が本当の姿とは限らず、ネットでは相手の真実が見えないことを意識させることが大切です。

「コントロールする力」を身につけた大人になるためには、利用のルールづくりと相談しやすい環境づくりがポイントです。事情も聞かずに怒ったり、勝手に決めたりせず、大人の都合は後回しにして、話し合い調整しながら子ども達の安全を脅かさないルールづくりを進めましょう。

インターネットは誕生以来実験中です。常に「意識しながら」「判断しながら」使いましょう。